



地区青少年奉仕委員会では、地区内での青少年奉仕活動を共有するとともに、各クラブの青少年奉仕活動をさらに充実させるため、「青少年奉仕情報」を発行しております。各クラブの青少年奉仕活動をご紹介するだけでなく、インターアクト、ローターアクト、青少年交換、職場体験・インターンシップの活動についてもご紹介してまいります。ご愛読、そしてクラブ内への情報共有をよろしくお願いいたします。

第29号は、青少年奉仕から「インターアクトクラブ提唱」、「RYLA」の特集、

P.5～ インターアクトから「顧問教師会の会長就任あいさつ」、

P.6～ ローターアクトから「各クラブの活動報告」、

P.11～ 青少年交換から「ジャパントアアの報告」などの掲載がございます。

また、P.4に青少年奉仕の基礎知識／第10回「ロータリーファミリー」の記事もございます。

1. 地区青少年奉仕委員会の活動（ご報告）

① 4月8日、地区青少年奉仕包括成果発表会を開催しました

当日は130名が出席しました（ロータリアン61名、青少年63名、米山奨学生・学友6名）。この発表会はインターアクト、ローターアクト、青少年交換など青少年奉仕部門の「クロスプロモーション」（セクター間の交流促進と共同活動のきっかけ作り）を目的として、地区内のインターアクター、ローターアクター、青少年交換プログラムの来日学生、派遣予定学生、ROTEXが一堂に会し、各セクターから活動の報告を行い、共有します。また、中学生職場体験・高校生就業体験の受入れ事業所やゲストとしてお招きした米山奨学生・学友からの報告なども行われました。報告後は、青少年奉仕部門の各セクターが混合でグループを組み、意見交換を行いました。このグループにロータリアンも加わりますがオブザーバーです。ファシリテーターのローターアクターから求められた時だけアドバイスをを行います。本年は米山奨学生・学友も加わりましたので、国際色も豊かになりました。意見交換会の主なテーマは「外国の人々が日本で暮らす上での「障害」は何か」でした。派遣予定学生が来日学生との交流行事にてなかなか意見を言い出せなかったことや、米山奨学生が日本に留学して挨拶の違いに困惑したことなどの体験談も共有しました。なお、別途議事録がございます。



② インターアクターが浦添ロータリークラブの例会を訪問しました

(戸田澄之地区委員青少年奉仕副委員長より)

浦添ロータリークラブは昭和薬科大学附属高校インターアクトクラブを提唱しています。顧問教師の長位先生の引率のもと、浦添ロータリークラブの例会に訪問し、インターアクターの活動を行いました。ロータリアンとインターアクターの交流の機会となっています。

③ 特集その1：インターアクトクラブを提唱するには？

(東京リバーサイドロータリークラブ 松本繁夫会員への取材より)

インターアクトクラブとは、12～18歳を対象としたクラブで、学校または地域社会をベースとして奉仕活動をしています。インターアクトクラブ会員は「インターアクター」と呼ばれます。インターアクトクラブの提唱は学校または地域社会をベースにして行います。当地区では、すべて学校ベースにて提唱しています。最近の提唱は東京北部では2001年に北豊島学園インターアクトクラブ(東京リバーサイドロータリークラブが提唱)、沖縄分区では2013年に沖縄高専インターアクトクラブ(那覇北ロータリークラブが提唱)となっています。今回は、北豊島学園インターアクトクラブを提唱している東京リバーサイドロータリークラブの松本繁夫会員に「インターアクトクラブの提唱」についてお話しを伺いました。

東京リバーサイドロータリークラブは1998年の設立です。設立3年目に北豊島学園インターアクトクラブを立ち上げました。これは、ロータリークラブ会員に北豊島学園の理事長がいらしたからでした。また、その年度のガバナーがインターアクトクラブの立上げを推進していたこともありました。年度内の立上げを目指して、その年度の会長が早急に進めました。2000年8月に立上げのお話しが始まり、12月に北豊島学園にて立ち上げる事が決定、2001年4月に設立総会となりました。

インターアクトクラブまでの立上げがスムーズでしたが、この後、たいへんな苦勞をされることとなります。早急な立上げだったため、北豊島学園の教員への周知がほとんど行われず、設立総会には教員は関係者以外参加せず、初例会にはロータリークラブ会員が1人しか参加がありませんでした。さらに、立上げの3年後、北豊島学園の理事長は退任されました(その後、ロータリークラブも退会されました)。ロータリークラブ会員がインターアクトクラブ例会に出席する際も冷たい対応となりました。学校側のやりたいようにインターアクトクラブを運営してもらい、ロータリークラブ会員は例会に出席するだけにとどめました。3年ほど経ったころ、インターアクター全員が高校3年生となってしまい、インターアクトクラブの解散の危機がありましたが、インターアクト活動をしてみたい生徒がいたことから存続することができました。これは当時の校長が理解を示してくれたこともあります。また、中学1年生のインターアクターに光るものを感じて、話しかけるようにしていきました。こ

のインターアクターが高校 1 年生の時に、北豊島学園インターアクトクラブはインターアクト年次大会のホストを初めて担当することができました。

取材に応じてくださった松本さんは、インターアクト出身です。だからこそ、インターアクトクラブの立上げ段階で、ロータリークラブ会員がインターアクトを理解していないことから、早急な立上げに反対しました。しかし、インターアクトクラブは立ち上がってしまいました。しかも、上記のように運営が上手くいかなかった時、インターアクト出身だからと担当を託されることになりました。松本さんは、当時のロータリークラブに「どういうインターアクトクラブを作りたいか」がなかったとします。ロータリークラブ会員の理解、学校側とのコミュニケーション構築のために、立上げまでに1年はかけるべきだったとします。また、職員会議にインターアクトクラブ立上げについて何度も議論してもらったとします。インターアクトクラブの立上げ、運営は、地区任せ、学校任せでは上手くいきません。理事長か校長のいずれかがロータリークラブ会員でないと学校側からの風当たりが強くなるとします。とはいえ、しっかりとした準備を行い、インターアクトクラブの下地が作れていれば、学校側もそれを変えるのは難しく、ロータリークラブも口出ししにくくなると思います。

現在、北豊島学園インタークラブの例会の例会へ東京リバーサイドロータリークラブ会員が、毎回少数ながら出席しています。ロータリークラブ会員の出席によりインターアクターの緊張感が違います。ロータリークラブ会員がいないとインターアクトクラブの例会は意味がないとします。いないと高校生の単なるミーティングになってしまいます。例会時、ロータリークラブ会員からコメントの機会をいただいています。インターアクターはロータリークラブ会員の経験などを素直に聴いてくれます。もっと時間が欲しいところです。また、ロータリークラブ会員は例会に出席することで、精神年齢を下げることができます。高校生のころを思い出すとともに、今の高校生のことを理解することができます。

松本さんから読者のみなさんへコメントです。「いろいろと苦労はありますが、インターアクトクラブを立ち上げて良かったと感じています。子どもの成長を直に見ることができる。また、インターアクターごとに対応は異なりますし、学年が上がるごとにインターアクターは変わっていきます。インターアクターに接することで自身の成長になります」。

③ 特集その2：スタートアップ RYLA（嶋村文男次年度地区 RYLA 委員長より）

松坂順一ガバナーエレクトは、更なる青少年奉仕活動を推進する目的で、次年度、地区単位の RYLA を採用し、実施することになりました。RYLA(Rotary Youth Leadership Awards、ロータリー青少年指導者養成プログラム)は、1971年に国際ロータリー理事会で採択されたプログラムで、国際ロータリーが推奨する4つの青少年奉仕活動の一つです。RYLAの目的は、地域社会の若い人々の指導力及び善良な市民としての資質や個人の能力を伸ばすことです。RYLAは、ロータリアンが直接関与できる機会であり、一番ロータリーらしい青少年奉仕活動とも言われています。

松坂ガバナーエレクトは、次年度の地区ターゲットに「研修と活性化」を掲げました。RYLAに対する理解と支援として、各クラブには、地域社会の中でリーダーとして囑望される若者

を見つけ出し推薦をお願いします。各クラブから推薦いただいた受講生は RYLA 受講後、RYLArian として、私たちロータリーファミリーの一員となり、各クラブと共にその地域社会を良くする活動を一緒に考え、新しい奉仕活動を拓げる起爆剤となります。また、RYLA に参加した受講生が将来、青少年の指導者として地域の中で活躍することを応援するという意味でもクラブの青少年奉仕活動になり得ます。

第 2580 地区初めての RYLA を自然豊かな沖縄県南城市にある「玉城青少年の家」で、2019 年 3 月 1 日～3 日の 2 泊 3 日で開催することにしました。共同生活を体験しながら新しい友人と出会い、語り合い、自分を見付け直し、多様性を感じ合う。そして、スキルと人格を養いながら、奉仕、高い道徳的基準、平和といったロータリーの価値観を学ぶ機会を提供します。対象になる方は、年齢 20～30 才の男女であります。地域社会で活躍している若者を中心に、会社の従業員やロータリアンのご子息ご令嬢、ローターアクト、ROTEX、米山奨学生や米山学友など、将来私たちと一緒により良い社会を作ることができる若者を見つけ出し推薦して欲しいと思います。受講生の負担は、集合場所の那覇空港までの交通費のみです。受講料(在京 1 人 30000 円、沖縄 1 人 25000 円)は推薦いただいたクラブでの負担になります。3 月の沖縄での RYLA にロータリアンの参加も歓迎しますが、沖縄の RYLA に参加できないロータリアンにも RYLA への理解と推薦していただいた受講生との交流の場として、2019 年 5 月 11 日(土)、RYLA 報告会の開催を予定しています。

現在、インターアクト、ローターアクトを提唱されていないクラブのみなさまには青少年奉仕活動のスタートとなります。クラブ内での RYLA 参加への気運を高めてほしいと願っています。次世代を担う若者を探し出し、応援し、期待を込めて指導する。そして勇気を与えます。

結びに、RYLA をより理解していただくためにも、地区 RYLA 委員を例会の卓話にお呼びいただきたいです。

連載！ 青少年奉仕の基礎知識／第 10 回「ロータリーファミリー」

ロータリアンであれば、「ロータリーファミリー」という言葉を聞いたことがあると思います。ロータリーファミリーが何を意味するか具体的にはよくおわかりにならなくても、1 度や 2 度耳にされたことくらいはあるかもしれません。例えば、地区大会において、ロータリーファミリーの集いとして「ロータリーファミリー交流会」を開催したりします。また、4 月 8 日に開催された在京・地区青少年奉仕包括成果発表会の概要を見ると「ロータリーファミリーは垣根を超えた青少年の繋がりです 共に未来を創造しよう」と謳われていたりします。このように折に触れて登場するロータリーファミリーという言葉ですが、「インターアクト、ローターアクト、青少年交換留学生(来日学生、派遣予定学生、ROTEX)、米山奨学生、米山学友、財団奨学生、財団学友、ロータリー平和フェロー、ロータリアン」を総称しています。My ROTARY のサイトには「ロータリーファミリーと協力して、活動範囲を広げ、より大きな成果をもたらしましょう」と掲載されています。(了)

2. インターアクトの活動（ご報告とご案内）（鈴木地区インターアクト委員長より）

① 第55回インターアクトクラブ年次大会のご案内（8月5日）

昭和薬科大学附属高校インターアクトクラブがホスト校、浦添ロータリークラブが提唱クラブとして、絶大なるホスピタリティーのもと、現在、準備をいただいております。インターアクトクラブ年次大会とは一年間のインターアクト活動の集大成として地区内インターアクターが一堂に会して、年間活動の報告と交流を深める貴重な機会です。当地区は沖縄・東京北部と離れていることからインターアクターの交流は難しいため、一年に一度の機会となります。ロータリアンのみなさまにはインターアクトの活動をご理解いただける、素晴らしい機会と確信しておりますので、多くの方のご参加とご登録をお待ちしております。

日 時：2018年8月5日(日)、8：30～ 登録受付開始

会 場：昭和薬科大学附属高校（沖縄県浦添市沢岬 450 番地）

※ 詳細は各クラブ事務局にご案内を送信しておりますのでご確認いただければと存じます。

② 特別寄稿「インターアクトクラブ顧問教師会の会長就任あいさつ」

（関東第一高等学校インターアクトクラブ顧問 桑原直幸先生）

このたび、前任者である浦澤先生（元日本大学第一高等学校インターアクトクラブ顧問）と顧問教師会の総意を得て、会長の大役を仰せつかりました関東第一高等学校インターアクトクラブ顧問の桑原直幸と申します。前任者の浦澤先生が、十余年にわたり、粉骨砕身されたインターアクトクラブ顧問教師会の会長をお引き受けできることを、光栄に思うと共に日々、身の引き締まる思いで過ごしております。

私たち顧問教師一同は、活動を通して、培った知識と経験を活かし、心豊かで地域社会や国際社会で通用する人物の育成を目標としています。しかしながら、各校のクラブ単位での活動だけでは、偏りが生れ、満足いく活動成果を上げることができませんでした。その打開策として、地区内のインターアクトクラブでの合同活動を年2回（※年次大会を含めると3回）実施してきました。この活動を行うことでインターアクター同志の交流が、活発となり充実した活動が送れるようになりました。そして、インターアクターたちのさらなる飛躍を考え、前年度よりロータリーファミリー（ロータリアン・ローターアクト・ROTEX）の交流を充実させて頂きました。ロータリーファミリーの多種多様な交流は、学校や活動内では触れ合うことができない貴重な交流であり、インターアクターたちはそれに刺激され、少しずつではありますが、世界を視野に入れた活動を考えることができるようになってきました。

最後になりますが、学校教育では手の届きにくい人間教育を達成するためには、ロータリアンのみなさまのご協力が必要不可欠です。今後も、インターアクターたちの可能性を引き出すために、ロータリアンのみなさまとのつながりを大切にさせていただき、交流を深め、懸命に取り組んで参ります。また、多くの方々の現場の意見を積極的に取り入れ、私なりのやり方で第2580地区の発展に寄与したいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

3. ローターアクトの活動（ご報告とご案内）（地区ローターアクト広報委員会より）

① 東京東ローターアクトクラブ

「羽田クロノゲート例会」／日時：4月14日

東京ワセダローターアクトクラブとの合同例会「羽田クロノゲート例会」を行いました。羽田空港付近にあるヤマト運輸株式会社の物流ターミナルを見学させていただきました。インターネットでの通販などで物流の流通量が日々増加する中、正確かつスムーズでお客様に商品を渡すシステムを間近で見ることができ、とても実りのある例会でした。

② 東京池袋ローターアクトクラブ

「社会奉仕についての勉強会」／日時：3月20日

社会奉仕活動を積極的に行っている東京東江戸川ローターアクトクラブの藤森様を招き、社会奉仕活動について、また、ローターアクトクラブと他団体との関係づくりについて、成功例や苦労したことなどをお話いただきました。現在、NPO 法人で働かれており、荒川の清掃活動を例に挙げてさまざまな団体との提携についてもお話しを聴くことができました。東京板橋セントラルローターアクトクラブ、横浜東ローターアクトクラブからもご参加いただき、少人数ながらも色彩豊かな例会となりました。



「豊島の歴史を知ろう例会」／日時：4月21日

今年度の新入会委員である、会計兼財務委員長の山崎帆洋による例会では、地名にはさまざまな意味が込められていることにつき、諸説ご紹介いただきました。本例会は、先日例会として参加した「第12回 社会貢献活動見本市及び交流会」で、豊島の歴史について紹介する団体から影響を受けたというのと、彼自身が依然から地名に興味があるということで詳しい知識を持ち合わせていたため、開催する運びとなりました。豊島区民の会員がいない当クラブのメンバーにとって、豊島区を知る良い機会となりました。神戸ローターアクトクラブから東京に転勤となったローターアクターの参加もあり、賑やかな例会でした。

おすすめ例会：

「卒会式例会」／日時：6月30日（日）

登録先：阪口章吾 ogurogigorugo@gmail.com

③ 東京江戸川ローターアクトクラブ

「江戸川区を知ろう」

今年一年を振り返ると、江戸川区に住む新メンバーやロータリアンと触れ合うことで江戸川区を知るというテーマに沿った活動ができたと思います。あつという間の一年でしたがほぼ全員参加で例会を毎回行えたのはメンバーの例会に対する意識が高まったからではないかと考えます。新メンバーを増やす取り組みも強化して行いました。増やす手段としてロータリアンからのご紹介をもとに見学会を設けたり、友人や職場の仲間を誘致するなど工夫をしました。本年度の新メンバーは3人でしたが今後も増やし活動を活発にする予定です。



④ 東京ローターアクトクラブ

「東京ローターアクトクラブ創立45周年記念式典例会」／日時：3月21日

東京ローターアクトクラブの45周年式典を開催しました。学士会館の式典会場には日頃よりお世話になっているロータリアンや、友好地区に限らず遠方よりも多数の方々にご臨席賜りました。歴代の会長がこれまで紡いできた5年間の活動報告の後にはメインプログラムとして水引飾りの結び方の講座を設け、過去の5年間の祝いとこれからの5年間に期待をという意味を込めた企画を行いました。多大なご支援とご協力をいただいたことで多くの方々とのつながりを意識する機会ともなりました。式典後の懇親会にも多くの方にお見えいただき、盛況のうちに例会を終えることが出来ました。



4月度例会 「藤井六段に見る才能の違いと、将棋脳の活用法」／日時：4月21日

将棋界の話題の人物をテーマに据え、棋士に見られるような直感とは如何なるものなのかというユニークな卓話を東京ロータリークラブの青野照市様の体験をもとに語っていただきました。こうした直感是我々には馴染みがないようでも、判断力といった形で社会に必要な能力としても身に着けているものであり、考え抜いたその先で選択肢を選ぶためにあるものだという事を教えていただきました。勝敗はその結果に過ぎず、その選択に迷う時点で答えのない問題に直面しているときに抽象的な思考が働いているということを伺い、多くの人々にとって勘や直感が生きていく上で不可欠な能力であるということを気付かされた機会でありました。

おすすめ例会：「東京ローターアクトクラブ、上西会員による「囲碁の話」」
／日時：6月16日(土)17:00-20:00／場所：学士会館
登録先：柏原忠和 (1wayticket0114@gmail.com)

⑤ 東京東江戸川ローターアクトクラブ

「かるた例会」／日時：5月12日(土)

国際奉仕委員担当例会として、かるた例会を実施しました。外国の方に日本の文化を知ってもらうことが目的の例会でしたが、日本人の私も改めて日本の文化を知る良い機会になりました。加えて、かるたをすることで親睦を深めることができ、とても良い例会でした。今回は、いろはかるたで行いましたが、次回は小倉百人一首例会ができれば良いと考えています。



⑥ 嘉悦大学ローターアクトクラブ

「新入会員の勧誘」／日時：4月上旬

嘉悦大学では新一年生のガイダンスが行われ、その中で部活動紹介がありました。今年は昨年より多くの学生が入学してくれたこともあり、我々嘉悦大学ローターアクトクラブの会員一同、熱の入った紹介をしました。長谷川の興味を引き立たせる司会、上川名のわかりやすい説明と、まさに100点満点の発表でした。しかし、入部者がたったの2名と残念な結果となりました。

「新入生歓迎兼バーベキュー例会」／日時：4月下旬

新入生にもっとローターアクトクラブに興味を持ってもらうために上川名主催のもと、小金井公園内のバーベキュー広場で例会を行いました。参加人数に至りましては、「何人まで」と人数制限をかけていなかったためロータリアン数名の方々、新入生9名と大人数で行われました。主催者の上川名曰く、「人数制限をかけていなかったのは誤算だった。」と述べておりました。また、予定時間に例会を開始できなかった点もあり、数々の課題が残った例会となりました。

⑦ 東京ワセダローターアクトクラブ

「ワセダクリーンハイク」／日時：3月22日

毎年恒例の「ワセダクリーンハイク」を本年度も開催しました。毎年、お花見シーズンを前に花見の名所（東京ワセダローターアクトクラブの地元）である神田川沿いを綺麗にすることで、訪れる人



に気持ちよくお花見を楽しんでもらおうとの趣旨で開催しております。本年度は、例年よりも桜の開花が早かったこともあり、満開の桜の下で清掃活動を行うことになりました。お花見に訪れた方から、「ありがとう」、「ご苦労様」などと声をかけていただき、大変有意義な活動ができました。

「春のお散歩例会」／日時：4月22日

我々の地元である早稲田・神楽坂エリアの理解を深めようと「春のお散歩例会」を開催しました。新入会員との交流を深めつつ、史跡や名所を巡り、地域の文化や歴史を学ぶことができました。



⑧ 東京板橋セントラルロータリークラブ

「気仙沼の水産加工品の販売ボランティア」／日時：4月8日

板橋区蓮沼町の「南蔵院」さん（提唱ロータリークラブの会員がご住職をされています）にて、「花まつり」に合わせてテントをお借りすることができました。南蔵院さんは枝垂れ桜でも有名です。本年は、残念ながら満開のピークを過ぎていました。販売ボランティアは今回で5回目です。販売した気仙沼の水産加工品は、マルトウさんの「笹かま」、「チーズちくわ」、マルトヨさんの「さんまくん」、マルヤマさんの「春わかめ」でした。マルトウさんの「チーズちくわ」、マルヤマさんの「春わかめ」が売れ筋でした。たくさんのお客様にお買い求めいただきました。



⑨ 東京浅草中央ローターアクトクラブ

「迎春！花見例会」

4月第1例会では、東京池袋西ローターアクトクラブと合同で、「迎春！花見例会」を開催しました。ロータリアンや友好地区ローターアクターの方々をはじめとして、45名以上にご参加をいただいたことで、盛大なお花見例会を開催することができました。例会では、参加者のみなさまに持ち寄っていただいた料理を美味しくいただき、チーム対抗のゲームを行うことにより参加者全員で親睦を深めることができました。今回の例会では東京池袋西ローターアクトクラブのみなさまにご尽力いただいたことで、例年よりも大きな規模での開催ができ、参加者全員で春の訪れを感じられる例会になりました。

当クラブではFacebookから情報を発信しています。

「東京浅草中央ローターアクトクラブ」で検索していただければと存じます。

⑩ 東京池袋西ローターアクトクラブ

「次年度に向けて」／日時：5月7日

年度末が近づいてきたので、次年度の役職を最終決定し、そして今後のスケジュールについて各自共有と確認を行いました。次年度は東京池袋西ローターアクトクラブとして迎える3年目となります。本年度は他クラブとの合同例会にて、みなさまから例会開催のノウハウを学ぶことに重点を置いていましたが、次年度は東京池袋西ローターアクトクラブとしての例会を多く開催したいと考えています。次年度に向け、各会員の意見をまとめ、どのようなクラブにしていきたいかを定めることができとても有意義な例会となりました。

おすすめ例会：

「東京ワセダローターアクトクラブ・池袋西ローターアクトクラブ合同 BBQ 納会」

日時：6月16日（土）13:45 集合、16:30 解散予定

開催場所：東京臨海広域防災公園 そなエリア東京 BBQ ガーデン

登録料：ロータリアン 5,000 円 友好クラブ、ローターアクトクラブ 3,500 円、ビジター 3,000 円(食事、飲み物付き)。

東京上野ローターアクトクラブの提唱

5月16日、上野／精養軒にて、東京上野ロータークラブが提唱した東京上野ローターアクトクラブのチャーターナイトが開催されました。船造俊之会長のもと、8名のローターアクターでの船出となりました。6名が学生となっており、そのうち1名は米山奨学生です。



船造会長は、「上野という街の変化を肌で感じとり、楽しみ、そして、発信します。また、地域の課題に触れながら、奉仕に身を投じることもローターアクターの責務です」と所信表明をされました。

なお、東京上野ローターアクトクラブの提唱により、当地区には16のローターアクトクラブが存在することになりました。

ローターアクトクラブ例会へのお誘い

各ローターアクトクラブから「おすすめ例会」として、ローターアクトクラブ例会などのご案内がございます。この例会については、未提唱クラブのロータリアンのご出席を歓迎しているものです。ぜひ、ご興味ございましたら、ローターアクト活動に直に触れていただければと存じます。青少年奉仕はまず青少年に会うことからです。お問合せやお申込みは「登録先」のメールアドレスになります。

ローターアクトクラブ例会への出席は、ロータリアンにとってもメーキャップになります。

4. 青少年交換の活動（ご報告と予定）

① 地区青少年奉仕包括成果発表会

4月8日（日）、13時から17時、東京都新宿区のA P西新宿において在京・地区青少年包括成果発表会が行われました。加藤光 ROTEX 委員長がこの一年の青少年交換の活動状況について映像を使いながら発表しました。

② 茶道稽古

2017-18年度来日学生及び第54期派遣予定学生を対象にした茶道稽古が、裏千家東京茶道会館「今日庵」（東京都新宿区）で行われました。3月、4月も月2回のペースでお稽古させていただきました。

③ ジャパンツアー

3月25日（日）から4月2日（月）までの8泊9日の行程で、青少年交換プログラムの2017-18年度来日学生（10名）及び第54期派遣予定学生（10名）が参加し、ジャパンツアーが行われました。ジャパンツアーとは、来日学生と派遣予定学生が合同で行うバスツアーのことです。日本の歴史的な名所旧跡を訪ねて日本の歴史と文化を学び、日本に対する理解を深める体験をし、世界の平和について語り合います。ジャパンツアーはROTEXが企画し、期間中はROTEXと地区青少年交換委員が入れ替わり立ち代わり学生たちをアテンドします。

本年度のジャパンツアーの行程は次のとおりでした。

- 3月24日（金）東京→奈良 工学院大学（東京都新宿区）に集合、一同バスにて出発
東大寺拝観、奈良公園散策
- 3月26日（月）奈良→京都 平等院拝観、清水寺拝観
- 3月27日（火）神戸→鳥取 鳥取砂丘
鳥取→島根 出雲大社拝観
- 3月28日（水）島根→広島 原爆ドーム、お好み村、平和ディスカッション
- 3月29日（木）広島→岡山 宮島、倉敷美観地区
- 3月30日（金）岡山→大阪 体験工房（絵付け体験）、海遊館
- 3月31日（土）大阪 班別自由行動
- 4月1日（日）京都→愛知 比叡山延暦寺見学、琵琶湖畔散策、名古屋城
- 4月2日（月）愛知→岐阜 ミズノ養老工場見学
岐阜→東京 工学院大学（東京都新宿区）にて解散

最後に、8泊9日の全行程を実際に学生たちと共に過ごしたROTEXの加藤光委員長の報告をご紹介します。

「3月25日から4月2日までの8泊9日で、ジャパンツアーを行いました。貸切バスで西日本を周る国際ロータリー第2580地区単独の大イベントです。何をどのように楽しみながら学ぶかを考えながら企画しました。本年度は、京都・奈良・大阪・広島・鳥取・岡山・名古屋

屋などに赴き、日本文化を代表するお城、あまり行かない鳥取砂丘等、来日学生・派遣予定学生にとって新たな発見が沢山ありました。ツアーの最大の目的は、平和について考えることです。本年度今年は特に、広島での平和ディスカッションが有意義な時間になるように、テーマを事前に来日学生・派遣予定学生に伝えたり、ロータリアンにも加わっていただいたりと工夫しました。「同じことを繰り返さず、未来に繋げるために、対話の機会を持ち、オープンになることが重要」、「ロータリー青少年交換学生として何をすべきかについて考えさせられた」といった感想も沢山聞くことができました。バックグラウンドによって戦争や平和に対する考え方が違うということを知り、ここで学んだことや考えたことを母国で共有していくことが大切であると気付いたようです。本年度の来日学生・派遣予定学生は、自ら学びを深めようとする積極さに長けていて、例年以上に学び深いツアーになりました。さらに、天候にも恵まれ、実り多い9日間を送ることができました。」

今回参加した来日学生・派遣予定学生が、民間レベルの国際親善大使として、国際親善と国際理解の推進の担い手として成長し続けてくれることを願います。4月2日のミズノテクニクス（株）養老工場の見学は、国際ロータリー第2580地区水野正人パストガバナーのご協力を得て実現できました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

④ 次年度（在京）青少年交換会議

5月9日（水）、15時から17時まで、学士会館において、次年度の各クラブの青少年奉仕委員長にお集まりいただき、地区青少年交換委員会の委員から地区青少年交換プログラムに関する説明会が行われました。まず、内田祐輔次年度地区青少年交換委員会委員長が青少年交換プログラムの概況を説明しました。地区青少年交換委員会の役割、派遣学生の選考、派遣予定学生の研修（オリエンテーション、サマーキャンプ、茶道稽古）、スポンサークラブ及びホストクラブの役割と心構え、ホストクラブの選考、これらについてはじめて青少年奉仕にかかわるロータリアンにもわかりやすいように丁寧な話をしました。続いて、武藤寿信委員が派遣予定学生と来日学生の現状と手続き概要について説明しました。遠山明良委員からのお話しでは、青少年交換委員としての実体験を踏まえたエピソードを通して青少年交換委員の活動の具体的なイメージを伝えました。休憩後、青少年交換プログラムをサポートするROTEXについて、大山剛委員と坂田拓斗次年度ROTEX副委員長が概要を説明しました。最後に、並木正幸次年度地区青少年交換委員会副委員長が、青少年交換留学生を受け入れた際のホストクラブの資金負担と、負担する費用項目と概算額について説明しました。そして、上山昭治次年度地区青少年交換委員会カウンセラーのご挨拶をもって2時間に及ぶ青少年交換会議は無事終了しました。

⑤ 2017-2018 年度第 23 回国際ロータリー日本青少年交換研究会 千葉会議

第 23 回国際ロータリー青少年交換研究会千葉会議が、2018 年 5 月 12 日（土）～5 月 13 日（日）、幕張メッセ国際会議場にて開催され、青少年交換にかかわるロータリアンが全国から参加しました。開会式では多地区合同認証伝達が行われ、斉藤直美国際ロータリー理事から NPO 法人国際ロータリー日本青少年交換委員会（RIJYEC）の舟木いさ子理事長に認証状が手渡されました。基調講演では、当地区の水野正人パストガバナーが「青少年交換プログラムとオリンピック・パラリンピックの夢」というテーマで約 1 時間お話されました。分科会では「青少年交換会議」、「危機管理委員長会議」、「ROTEX 会議」の 3 つにわかれ、それぞれのテーマのもと 2 時間にわたり有意義な学びの場を持つことができました。

⑥ 下谷神社大祭

5 月 13 日（日）、下町で一番早い夏祭りとして行われている下谷神社大祭に、2017-2018 年度来日学生と第 54 期派遣予定学生が参加し、神輿担ぎを楽しみました。当日は朝から曇天で、暑くもなく寒くも無い丁度良い感じでしたが、昼過ぎから雨が降り出し 14 時頃には本降りになり皆ずぶぬれになりながらも、元気に笑顔で神輿を担ぎました。東京上野ロータリークラブ様にはたいへんお世話になりました。誠にありがとうございました。

⑦ 今後の予定

6 月 10 日（日）、第 55 期選考試験（ホテル・メトロポリタン）

6 月 17 日（日）、2017-18 年度来日学生帰国前報告会（ホテル・メトロポリタン）

第 54 期派遣学生合同歓送会（ホテル・メトロポリタン）

【ご参考】青少年交換プログラムの受入れメモ／クラブとしての取組みの大切さ

（東京板橋セントラルロータリークラブより）

2016 年 8 月～2017 年 7 月、当クラブでは、デンマークからの来日学生（高校生。女子）を受け入れました。クラブとしての取組みを下記にメモします。

【受入れ前に】

- ・青少年奉仕委員長より、青少年交換プログラムの趣旨や、ホストファミリーの役割・負担、メリット・デメリットを具体的に説明しました（文章にしました）。
- ・また、ホストファミリー以外の会員に対して、受入れ以外に協力できることをアンケート行いました。ホストファミリー以外にも当事者意識を持っていただくためです。

これにより、ホストファミリー、3 組を得ることができました。1 組は何回も受入れたことのあるベテランですが、2 組は初めての受入れになります（内 1 組は会員のご両親でした）。また、ファースト・ホストファミリーはベテランまたは経験者が担当することが大切です。

【受入れ直後に】

- ・青少年奉仕委員長が調整しまして、来日学生、会長・幹事、ファースト・ホストファミリー、セカンド・ホストファミリー、サード・ホストファミリー、そして、ジュニア・カウンセラー（ROTEX）による食事会を開催しました。セカンド・ホストファミリー、サード・ホストファミリーに早い段階で、本人との顔合わせをしてもらうとともに、ファースト・ホストファミリーからの送りなどを行います。また、セカンド・ホストファミリー、サード・ホストファミリーとジュニア・カウンセラーとのコミュニケーションのきっかけにもなります。このような食事会を受入れ期間中、通算3回開催しました。
- ・セカンド・ホストファミリー、サード・ホストファミリーに、ジュニア・カウンセラーの連絡先を伝え、どのような相談ができるか、どのようなサポートをしてくれるかの説明をしました。ジュニア・カウンセラーは来日学生に対してニュアンスの難しい伝達をしてくれます。

「青少年奉仕情報」第29号発行にあたって

いつも青少年奉仕情報をお読みいただき誠に有難うございます。早いもので本号をもちまして本年度の青少年奉仕情報は最後となります。隔月で発行してきましたバックナンバーを読み返してみますと、若者たちの活動を通じた情熱が改めて伝わり、この1年間の内容の濃さを表しているように思えます。

みなさまのご周知の通り、青少年奉仕活動は国際ロータリーの常設プログラムです。ロータリーが掲げる恒久の世界平和に向けた奉仕活動は多くありますが、この青少奉仕活動ほど持続した成果を上げ続けているプログラムは他にないでしょう。また、常設プログラム以外にも様々な青少年奉仕活動を行っているクラブや個人もいらっしゃると思います。先日発行しました、「青少年奉仕ガイドブック」にはそうした活動をご紹介させていただきましたが、この「青少年奉仕情報」には新たな活動に向けたヒントも多くあると思います。

本号の特集にある「RYLA」は、いよいよ当地区においても実施されることになりましたプログラムで、次年度より地区 RYLA 委員会も設置されることになりました。まだ聞きなれない方も多くいらっしゃると思いますが、概要と今後の予定について掲載しておりますので、これを機にこのプログラムへの関心を高めていただければ幸いに存じます。

最後にこの1年間、貴重な経験をさせていただきましたことに、関わりましたすべての方々にこの場を借りまして心よりお礼申し上げます。また、次年度は新たな体制となりますが、引き続きみなさまの温かいご支援、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

地区青少年奉仕委員長 大西太一郎（東京紀尾井町ロータリークラブ）

今号も最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。

クラブから、青少年奉仕活動の開催情報・ご報告（写真のデータとキャプションだけでもかまいません。随時募集中です）、また、本誌へのご意見・ご質問などをお待ちしております。

お問い合わせ／掲載希望などの連絡先

地区青少年奉仕委員会（担当；茂木）まで mitsu-motegi@msc.biglobe.ne.jp